

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	小牧市民まつり開催委託事業				担当部	市民産業部				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般	担当課	生活交流課				
	事業期間	平成12年度以前		～	平成30年度以降		担当係	交流係			
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活		2 交流		1 住民相互のつながりを深める				
		副目的									
	予算区分	款	2	項	7	目	2	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	市民の憩いの催事として、市民・行政・企業が一体となった運営・企画を行い、より多くの市民に親しんでもらえるまつりとする。									
	内容 (手段)	<p>◆24年度実施内容</p> <p>・市民参加型の交流を目指し、参加する方も見る方も楽しく、また来たくなるようなまつりの実施委託</p> <p>会場：小牧山、市民会館・市公民館、まなび創造館、メロディーパーク、駅西広場、パレード</p> <p>経費：市からの委託金、市内外の各事業所から多くの協賛金</p> <p>◆24年度直接経費の内訳 ・市民まつり開催委託料 35,000千円</p> <p>全体の決算 45,477千円(内 委託金(直接経費) 35,000千円、協賛金等10,477千円)</p> <p>【現在の会場】</p> <p>「小牧山会場」：毎年異なるテーマを掲げ、慣習に捉われない斬新かつ柔軟な会場。 ※第32回「海賊たちと世界大冒険」、第33回「花と緑のワンダーランド～きっちゃんの大冒険～」</p> <p>「市民会館会場」：学校の文化祭的なイメージの会場。 ※八雲コーナー、こまきフレンドパーク(子どもが遊べる場)、バレエ、琴、民謡等</p> <p>「駅前会場」：ダンスを中心とした新しい小牧を発見できるような会場。</p> <p>◆25年度実施内容</p> <p>織田信長公の小牧山城築城450年の記念事業の一つとして、「夢・チャレンジ 450th Anniversary」のサブテーマのもと開催。</p> <p>「小牧山会場」：今年は、「いざ小牧山城!」と題し、市の資源である小牧山城を活かし、おまつりとして楽しみながら居住する小牧の風土や歴史を知ってもらい、450年の記念事業の一つとして、「夢・チャレンジ」に溢れた会場。</p> <p>「市民会館会場」：八雲コーナーほか飲食・物産エリア、バレエ、琴など各種団体発表、盆栽など展示を中心とした会場。</p> <p>「駅前会場」：ダンスミックスや各県物産フェアを中心としたメロディーパーク、生花展やカラオケ大会を中心としたラピオから成る会場。</p> <p>「パレード」：三英傑行列にかわる信長行列やマーチングバンド中心に構成</p> <p>※基本的に参加団体は自主運営のため、費用は自己負担となるが、実行委員会から費用の一部助成をしている。また、コンテストなどの大会は、実行委員会が別途参加費を徴収している。※平成22年度から、まつり全体の企画・運営に携わる組織、「企画運営部会」を新設。公募市民を中心に小牧市民まつりを運営。</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 ・市民まつり開催委託料 36,000千円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	35,500	35,000	35,000	36,000	
		正職員	従事者数	人	1.00	1.00	1.00	1.00
			人件費	千円	5,330	5,330	5,330	5,330
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	40,830	40,330	40,330	41,330		
対前年比	%		98.7	100.0	102.4			
財源	一般財源	千円	40,830	40,330	40,330	41,330		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	総行事数	行事	目標	150	150	150
実績				152	171	168	
業	開催会場数	箇所	目標	6	6	6	6
			実績	6	6	6	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			目標	185,000	185,000	185,000	200,000
業	来場者数		実績	185,000	145,000	200,000	
			目標				
績			実績				
			目標				

事業の自己評価	事業の達成状況	24年度は、小牧山会場では市民まつりのマスコットキャラクター「きつちゃん」をメインとしたイベントを展開し、ステージなど各種団体の参加により、行事数は目標を達成できた。また、来場者数に関しても、2日間晴天に恵まれたこともあり、目標を達成することができた。 ※参考 1日目 85,000人 2日目 115,000人	
	事業実施における課題	市民まつりも回を重ねるごとに規模が大きくなり、その結果会場が、市民会館、駅前、小牧山、パレードと分散化、また、参加者の固定化が起きている。 また、24年度外部評価において、以下の取組方針が決定されており、検討が必要である。 ・市民まつりをより魅力のあるものにしていくために、来場者のニーズや満足度を把握したうえで、内容を研究し、改善を行っていく。 ・市民まつりの課題となっている会場のあり方については、公募市民等により構成された企画運営部会の検討結果を基に、必要に応じて見直しを行う。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	市民まつりは、目的として市民相互の融和を深め、文化をはぐくみ、市民でつくるまちづくりを推進するため、「ふれあいの輪をひろげよう」のテーマのもとに市民総参加のまつりを実施するとある。市民まつりは、単にまつりを開催するという側面だけでなく、地域・団体がともに準備し、作り上げることで、地域・団体同士の絆も深まり、まちづくりにもつながっていることから、廃止・休止はかなり影響が大きいと考える。	
改善内容	平成25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	25年度は、織田信長公の小牧山城築城450年の記念事業の一つとして「夢・チャレンジ 450th Anniversary」のサブテーマのもと開催。小牧山会場をはじめ随所に450年記念を意識した行事を開催し、相乗的に市民まつりを盛り上げようとするもの。	
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	事業の廃止・休止したときの影響で記載したとおり、市民まつりの開催がまちづくりにもつながっており、実施主体も市民、団体が中心となっていることから、今後も「ふれあいの輪をひろげよう」をテーマのもとに、開催していくため。	
	26年度以降の改善案	公募市民等による「企画運営部会」にて、市民まつりをよりよいものにしていくために、第35回(H26)開催をめざして、会場の配置、参加団体のあり方、パレードのルート変更等議論が進んでいます。さらに、H25年度のアンケート調査結果を踏まえ、H26年度に反映し、小牧のランドマークである小牧山を中心としながら開催していく方向である。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。公募市民等による企画運営部会での検討やアンケート調査結果をふまえ、会場の見直しを進めるなど、魅力的なまつり運営に努めること。